

関東地方会

第74回定期総会を開催 新地方会長に金容昭牧師を選出



2023年4月29日東京教会において、総代84名中70名(委任11名)が参加し、第74回関東地方会定期総会が開催された。

開会礼拝は副会長申大永長老の司会により李明忠会長が「あなたはわたしに従いなさい」(ヨハネによる福音書21:22)と題したメッセージを伝えた。

主な決議事項などは以下の通りである。

- (1) 長老増員請願承諾: 横浜1名、品川1名、東京7名
- (2) 地方牧師承認: 金柄鎬牧師(総幹事退任後)
- (3) 2023年度予算案承認: 10,700,000円(内7,002,000円は総会分担金)
- (4) 牧師按手式: 李銀珠(ハンサラン)、張聖(ハンサラン)
- (5) 宣教師加入式: 姜英珍牧師(東京第一)、馬榮烈牧師(仙台)
- (6) 新任員
 - ・会長: 金容昭牧師(西新井)
 - ・副会長: 金迅野牧師(横須賀)、柳町功長老(横浜)
 - ・書記: 金明均牧師(千葉)・副書記: 洪雄杓牧師(北上ベテル)
 - ・会計: 李永久長老(横浜)・副会計: 金恵珍長老(川崎)
- (7) 各部長
 - ・伝道部: 姜章植牧師(品川)・教育部: 鄭有盛牧師(東京東部)
 - ・社会部: 李相勁牧師(川崎)
 - ・宣教協力: 金秉喆牧師(東京聖山)・青年部: 曹泳石牧師(盤石)
 - ・女性部: 金根湜牧師(ハンサラン)
 - ・壮年部: 郭恩珠牧師(セナムル)
 - ・考試部: 李明忠牧師(横浜)・財政部: 李永久長老(横浜)
 - ・監査: 朴英遠長老(品川)、金榮千長老(東京)



中部地方会

第60回定期総会を開催 新地方会長に崔和植牧師を選出



2023年5月4日(木)豊田めぐみ伝道所において中部地方会第60回定期総会が開催された。総代員28名中26名が出席し、各種報告と役員改選や献議案などが承認された。

開会礼拝には、地方会長金明均牧師により「集まることに力を注ぐ」(ヘブライ人への手紙10:19~25)という題名の説教があり、

李珍容牧師(豊田めぐみ)の司式のもとで聖餐式が行われた。主な報告や決議事項は以下の通りである。

- (1) 長老増員: 名古屋教会(1名)、(2) 四日市教会解散を承認
- (3) 朴太元牧師、金智一牧師の無任所牧師延長を承認
- (4) 2023年度予算案承認: 16,848,314円
- (5) 中部地方会規則(第4章第11条7項)の改正: 「[任職員会は役員と各部長と各教会、伝道所の担任牧師と各教会から派遣された視務長老1名で組織する。]
- (6) 新任員
 - ・会長: 崔和植牧師(長野)
 - ・副会長: 李珍容牧師(豊田めぐみ)、李大宗会長(名古屋)
 - ・書記: 許光涉牧師(岡崎)・副書記: 蔡銀淑牧師(大垣)
 - ・会計: 崔宰熏長老(名古屋)・副会計: 高在道長老(名古屋)
 - ・伝道部: 蔡銀淑牧師(大垣)・教育部: 金成彦牧師(豊橋)
 - ・社会部: 李大宗長老(名古屋)・青年部: 金炯振牧師(千曲ビジョン)
 - ・財政部: 崔宰熏長老(名古屋)・女性部: 李正子勸士(名古屋)
 - ・考試部長: 崔和植牧師(長野)
 - ・韓日宣教協力委員会: 金明均牧師(名古屋)
 - ・電子メディア委員会: 権潤日牧師(浜松)
 - ・会計監査: 呂和淑(名古屋)、曹述燮(名古屋)



関西地方会

第74回定期総会を開催 新地方会長に朴栄子牧師を選出



2023年5月5日大阪北部教会において、総代65名中59名が参加し第74回関西地方会定期総会が開催された。

開会礼拝は京都南部教会新井由貴牧師が「私たちはキリストの体」(コリントの信徒への手紙112:27)と題する説教をした。

主な決議事項などは以下の通りである。

- (1) 牧師按手: 咸美羅牧師(布施)
- (2) 長老増員請願承諾: 京都2名、京都南部1名、大阪北部3名、大阪2名
- (3) 大阪南部教会解散の件が可決。
- (4) 関西地方会規則改正の件が可決。
- (5) 新任員
 - ・会長: 朴栄子牧師(豊中第一復興)

- ・副会長: 金鍾權牧師(平野)、森克之長老(大阪)
- ・書記: 金忠洛牧師(堺)・副書記: 宋南鉉牧師(大阪第一)
- ・会計: 吉井秀夫長老(京都)・副会計: 金光成長長老(大阪)
- (6) 各部長
 - ・伝道部: 趙永哲牧師(大阪北部)・教育部: 朴愛仙牧師(今福)
 - ・社会部: 申容燮牧師(KCC)・宣教協力: 金鍾權牧師(平野)
 - ・青年部: 梁陽日長老(大阪)・女性部: 高慶美長老(大阪)
 - ・壮年部: 三代川太郎長老(京都南部)
 - ・考試部: 朴成均牧師(和歌山第一)
 - ・納骨堂委員会: 全聖三牧師(布施)
 - ・視察部: 朴栄子牧師(豊中第一復興)



西部地方会

第39回定期総会を開催 新地方会長に韓承哲牧師を選出



4月29日(土)西部地方会第39回定期総会が、神戸東部教会堂で開催された。

開会礼拝には明石教会李聖兩名牧師により、「教会の基礎」(コリント11:11~13)との題の説教があり、会長代行の韓承哲牧師の司式のもとで聖餐式が行われた。

総代員32名中24名が出席し、各種報告と

役員改選や献議案などが承認された。

重要な報告や決定事項は以下の通りである。

(1) 新任員

- ・会長：韓承哲牧師(神戸東部)
- ・副会長：韓世一牧師(神戸)、梁昌熙長老(武庫川)
- ・書記：尹鐘憲牧師(明石)・副書記：崔亨喆牧師(岡山)
- ・会計：白承豪長老(神戸)・副会計：金哲鎬長老(神戸東部)

(2) 第38回西部地方会定期総会会議録承認

(3) 西部地方会内規改正承認

(4) 無牧教会等再建特別委員会設置承認

(5) 臨時堂会長選任承認

(6) 予算案承認：8,197,804円



西部地方会

孫信一牧師委任式挙行 在日牧師として西宮教会に赴任



2023年5月21日西部地方会の西宮教会において孫信一牧師の委任式が行われ、西部地方会の各教会から多くの方が参席した。

礼拝は臨時堂会長尹鐘憲牧師の司会のもとで開会され、説教は総会長の中江洋一牧師が「神に喜んでいただくために」(Iテサロニケ2:1~4)という題名で行った。

委任式は、西部地方会長の韓承哲牧師の司式で行い、紹介、誓約、祈祷後に孫信一牧師が西宮教会の担任牧師になったことが宣布された。

この度、西部地方会から西宮教会での牧会を委任された孫信一牧師は、1959年日本で生まれ、韓国の延世大学校神学科、長老会神学大学院、米国のニューブランズウィック神学校などを卒業し、2000年関東地方会で牧師接手を受けた。

姫路薬水教会伝道師、水戸教会牧師、大阪教会副牧師を経て2008年からチェコの兄弟団福音教会のコピリシ教会の日本語礼拝担当牧師として仕え、この度西宮教会に赴任した。

家族は夫人と2男がいる。

西南地方会

第73回定期総会を開催 新地方会長に辛治善牧師を選出



5月5日(月)福岡教会に於いて第73回西南地方会定期総会が行われた。

開会礼拝では金聖孝会長の説教『私たちは主の家族(マルコ3:31~35)』を心に留め、金仁果牧師の司式で聖餐式が執り行われた。総代18名(準総代・来賓含め32名)が出席した。主な決議事項は以下である。

(1) 新任員

- ・会長：辛治善牧師(福岡中央)
- ・副会長：尹善博牧師(博多)、朴在徳長老(沖縄)
- ・書記：趙顯奎牧師(別府)
- ・会計：高文局長老(別府)

(2) 部長

- ・伝道部：金聖孝牧師(熊本)・教育部：朱文洪牧師(小倉)
- ・社会部：郭鏞吉牧師(沖縄)・青年部：趙顯奎牧師(別府)
- ・女性部：李惠蘭牧師(折尾)・宣教協力部：尹善博牧師(博多)
- ・視察部：朴栄喆牧師(対馬めぐみ)・考試部：金聖孝牧師(熊本)
- ・歴史編纂委員会：尹善博牧師(博多)

(3) 長老選出承認：小倉教会1名、折尾教会1名、福岡教会2名、博多教会1名

(4) 西南地方会予算案、10,800,201円を承認。

閉会礼拝は辛治善会長が説教『絶望を希望に(ルカ5:12~16)』をし、祝祷の後、閉会を宣言した。



武庫川教会

崔美恵子長老将立式挙行 勸士就任式、誉長老推戴式も兼ねて



2023年4月30日(主日)武庫川教会において崔美恵子長老将立式、金鮮英勸士就任式、姜遠基名誉長老推戴式が行われた。

堂会長の梁榮友牧師の司会で礼拝が始まり、中江洋一総会長の「恵みの賜物を軽んじてはならない」(第一テモテ4:13~16)という題で説教した後、西部地方会長の韓承哲牧師の司式により崔美恵子長老の将立式が行われた。

引き続き梁榮友牧師の司式により、金鮮英勸士就任式と姜遠基名誉長老推戴式が行われた。

西部地方会では23年ぶり二人目の女性長老の誕生である。崔美恵子長老は1961年福岡県生まれで、1977年に小倉教会で受洗した。伴侶は林英宰長老である。

西部地方会と関西地方会から多くの教友が集い、礼拝堂がいっぱいになった。コロナ禍の終わりを告げる恵みに満ち溢れた記念式典となった。

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

●B6版変型・1483ページ

●価格：2,500円(消費税・送料込み)

※お求めは総会事務所へ

講壇掛・ストール販売



在日大韓基督教会ではKCCJのロゴ入り講壇掛・ストールを制作・販売しています。

価格は講壇掛・ストール共4色セットで各1万円(約半額)

講壇掛・ストール両方ご購入の場合は1万5千円です。※お求めは総会事務所へ

大阪教会

創立100周年記念礼拝挙行

金恵心、金聖子長老将立式と金愛利、柳美善、金由香勸士就任式も同時に



金恵心 長老



金聖子 長老

初め、その始まりの時に100年という長い年月につながって行くとな誰が想像出来たであろうか？朝鮮半島から船に乗って、日本に渡ってきた幼い二人の少女は、見ず知らぬ異国の地で両手を固く結んだ。故郷が恋しい時は、寮の部屋の片隅で布団を被りながらすすり泣いたであろうし、両親と家族を思い出し、荷物をまとめて帰りたい時が二度も三度もあったであろうに、その度に少女たちは、プール学園の倉庫の祈りの部屋で、一人の神学生と共に神さまに祈りを捧げ続けた。102年前、大阪教会の始まりを知らせる祈りの声である。

100周年の記念、これさえもそう簡単な事ではなかった。コロナウイルス感染事態で緊急宣言が出され、数ヶ月が過ぎれば良くなると予想していたところが、何度も延期を余儀なくされ、100周年記念礼拝と感謝祭を全信徒と周辺の信仰の同志たちと共に捧げたいとの思いから先延ばしにせざるを得ず、真に容易なことではなかった。

102周年を迎える教会創立記念主日に、時計を後ろに回してやっと、教会創立100周年記念礼拝を捧げるに至った。ヨベルの年を知らせる角笛を吹くホサンナ聖歌隊指揮者である申幸烈執事(トランペット奏者)の角笛演奏で感謝の100年を知らせた。グロリア吹奏楽団の希望なる叫びのファンファーレと喜びを賛美する全信徒は、在日大韓基督教会の信仰告白と使徒信条を共に告白し、大阪教会に属する子供たちと年老いた信徒たちと老人大学の学生たちが、100周年に再び両手を握りしめた。聖歌隊の賛美<主の教会が大好き>は、創立記念主日の感謝を表した賛美を捧げた。<感謝の100年、希望の100年>在日大韓基督教会宣教100周年大会は、大阪女学院で1300人の聖徒たちが集まった記念礼拝で、第49代総会長だった鄭然元牧師が宣言した説教のタイトルでもある。過ぎた100年に感謝、これから迎える100年に希望だけが溢れることを願いながら、私たちの子孫たちが迎える時代には希望に溢れることを望みながら、100周年記念説教を再び叫んだ。大阪教会のビジョン理念の発表を通して、教会の使命を誓った。外部からの招請を控える中、総幹事金柄鎬牧師と釜山寿安教会の李萬奎元老牧師の祝辞により、信徒たちに勇気を奮い立たせた。この礼拝には、本教会の創立者の一人である申南秀執事の孫の尹浩信名誉長老(本教会)、第二代長老である韓徳七長老の孫娘、韓京恩勸士、張齊根長老(済州永楽教会)が出席できたのは意味深く感じられた。100周年感謝礼拝に続き祝賀会は、教会学校の子供たちのサムルノリをはじめ、栄光会(老人部)、勸士会、老人大学、堂会、女性会、寿安教会サラン重唱団の讃美と男性会の歌とダンス披露と韓国舞踊チームハレルヤの扇子の踊りが続いた。特別出演で、東洋ローア・キリスト伝道教会大阪伝道所の田中久祥牧師の祝辞と手話賛美があった。東洋ローア教会は、大阪教会の礼拝堂建築後に3階礼拝室、教室を借りて主日礼拝、水曜祈禱会を43年間続けてきた最も近い隣人である。手話の賛美を共にした信徒たちは、目に涙をする感動を受けた。最後の順序は、大阪教会連合聖歌隊が「恵み」を賛美し、過ぎた100年は神さまと先輩方に感謝し、新なる100年は希望で迎えるという決心を共にする祝い会であった。

午後3時から任職式が執り行われ、金恵心・金聖子長老将立、



金愛利・柳美善・金由香勸士就任、名誉推戴には吳榮一長老、韓英子、鄭貞順、金聖姫執事が推戴された。礼拝の説教は、全聖三牧師が「いつまでもある実りのために」という題目で説教をした。関西地方会長の朴栄子牧師の司式で行われた。

金恵心長老は、1962年日本生まれ、父親の金容秋長老の次女であり、夫の森克之長老と共に夫婦で視務長老となり(本教会で6番目のカップル長老)、金聖子長老も1964年日本生まれ、父親の金鐵斗長老(45回期副総会長)母親崔相淑長老の三女であり、外祖父崔正洙牧師の孫娘として意味深き長老将立式は、総幹事金柄鎬牧師、金忠洛牧師、全国女性会長の崔美恵子長老の祝辞を通じて、女性指導者が教会の内外において、新なる奉仕の時代を開くことを示した。

感謝の涙と喜びを交わしながら、新たな希望を持って新100年に向かって行進する祝祭の日であった。総会内100ヶ所の教会と姉妹教会、宣教協力教会、宣教同役教団と大阪教会を愛する多くの方々の暖かさが恵みであると告白する次第である。

(報告:鄭然元)

大垣教会

創立90周年記念礼拝挙行

次の世代に信仰が受け継がれるよう期待

1933年4月に始まった大垣教会は創立90周年を向え、去る4月23日に創立90周年記念礼拝を捧げた。多くの中部地方会に属する教会の信徒たちが参加して祝った。また、大垣市内の信徒会の方々も参加して喜びを分かち合った。

礼拝は、中部地方会長の金明均牧師が説教をし、浪速教会の金鐘賢牧師と日本キリスト教会大垣教会の堀江法夫長老が祝辞を述べ、名古屋教会の聖歌隊が特別讃美を捧げ、とても豊かな礼拝になった。

大垣市は1990年代までは繊維の都市だった。繊維、紡績、染色など繊維産業に従事している在日同胞が多く、それにつれ教勢も旺盛だったが、工場が海外に移転するなど仕事を失った信徒たちが、職場を求め他の地域に転出するようになり、次第に教勢が弱まってしまった。現在の教会堂は1975年2月に建築されたが、老朽化が進み次々と修繕をしている状況である。

今後、100周年を迎えるにあたり、日曜学校が回復され、次の世代に信仰が受け継がれていくことを願っている。

(報告:蔡銀淑)



特別連載
4

1923ジェノサイドの記憶と十字架の信仰(4)

—関東大震災朝鮮人虐殺100周年を迎え—

金性済 牧師(日本キリスト教協議会総幹事)

<4> 国家責任としての戒厳令、電文、そして告諭

関東大震災時の朝鮮人虐殺は、日本の国家責任がまず問われる。1882年に成立した戒厳令(太政官布告第36号)には、「第1条 戒厳令は戦時若くは事変に際し兵備を以て全国若くは一地方を警戒するの法とす。」とある。戦時でも事変でもない大震災に対し、9月2日正午、戒厳令が正式に公布される。これは法的逸脱である。にもかかわらず、なぜ発動されたか。それは、内務省・軍部が「不逞鮮人」への対応を、戦闘態勢と認識したからである。さらに、戒厳令の条文は、第14条の「検査」が「検査押収」「検問設置」へと拡大解釈され、それが自警団による検問所の合法化となり、「不逞鮮人狩り」状態をつくり出すこととなった。

その経緯は以下の通り。まず、9月1日午後2時頃、赤池濃(あつし)警視總監が水野錬太郎内務大臣に戒厳令を建言(雑誌「自警」1923年11月号)。内田康哉臨時内閣の内務相、水野は、翌2日朝の閣議で戒厳令を建議。そして、枢密院での諮詢をとばし、浜尾新枢密院副議長だけの了解を得て、摂政(裕仁)に上奏し、裁可を得て、2日の正午に発動。その経緯を、水野はのちに証言している(『帝都復興秘録』230-236頁)。同日午後4時に組閣を完了した山本権兵衛内閣は戒厳令下での軍部主導の「不逞鮮人」制圧路線を引き継ぐことになる。9月1日深夜から民間人救護活動のために全国各地の軍隊が東京・関東に結集されていくが、戒厳令以前に発令されていた衛戍令(えいじゅれい)によって軍による朝鮮人殺害行為は一部始まっていた。戒厳令の発動した、9月2日の正午以降、軍は「不逞鮮人」制圧の行動を激化させていくことが『東京震災録』(別巻 1927年 897~898頁)の「功勲具状」の記録と、虐殺現場にいた兵士の手記からわかる。「功勲具状」は軍人による治安維持の功績をたたえる記録であるから、軍隊の虐殺行為は記録していないが、2日正午以降、その記録の中に「鮮人」という記述が頻出する。その記述の裏に隠された現実が何であったか。当時、千葉県東葛飾郡の野戦銃砲第一連隊の一等卒兵、久保野茂次の「軍隊日記」(所収: 関東大震災五十周年朝鮮人犠牲者追悼行事実行委員会編『歴史の真実 関東大震災と朝鮮人虐殺』13-20頁、特に18頁)には、9月29日付日記に想像を絶する残忍な方法で女性たちをはじめ朝鮮人が惨殺される光景が記述されている。そしてその欄外に、「九月二日、岩波少尉兵ヲ指揮シ鮮人二百名殺ス」と記している。「功勲具状」では、岩波清貞少尉は9月2日付で救護活動が称えられている。今一つ、習志野騎兵連隊所属の兵卒、越中谷利一の「戒厳令と兵卒」という手記では、9月2日、亀戸での朝鮮人虐殺について「ぼくが・・・出動したのは九月二日の時刻にして正午少し前頃・・・さながら戦争気分!・・・憐れむべし、数千の避難民の中で、安寧秩序の名の下に、逃れようとするのを背後から白刃と銃剣下に次々と仆れたのである。と避難民の中から、思わず沸き起こる嵐のような万歳歓喜の声。(国賊! 朝鮮人はみな殺しにしろ!)」と記されている(所収: 『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅲ 朝鮮人虐殺に関する知識人の反応2』106頁 原文での伏字部分は「関東大震災の思い出」<1961年>原稿で復元)。

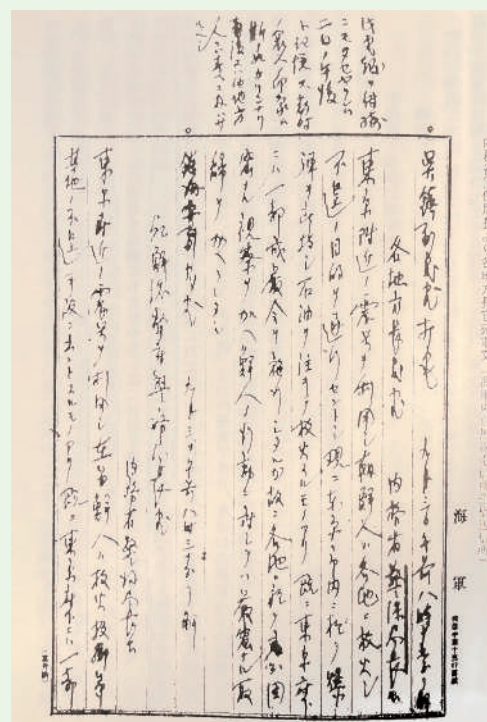
この光景を、自警団に加わる民間人は目撃しながら、何を心に焼き付けられたであろうか。

軍による虐殺が9月2日の戒厳令によって激化した後、自

警団による虐殺は関東地方に燎原の火のごとく広がる。山本内閣は、少なくともこの問題に関わる三つの告諭(今の内閣決議発表)を発表。9月4日には、「摂政殿下”(裕仁)の「御憂慮」を伝え、政府と国民の挙国一致を促している。翌5日の「鮮人ニ対スル迫害ニ関シ告諭ノ件」では、「不逞鮮人」の「妄動/不穩」を幾分の事実であるかのように書き記した後、それに不快感を抱く民衆の、朝鮮人に対する迫害は「日鮮同化」の国家政策に反し、またそれが国際的に知れ渡ればまずいことになる、国民に自重を促している。しかし、論理の骨子は、虐殺は自警団という民衆組織によってなされたものと完全にすり替えられている。さらに16日の告諭では、この数千人に及ぶ朝鮮人虐殺事件を、「多少ノ常軌ヲ逸シタル者アルヲ免レス」という程度の問題に片づけている。

水野内務相と赤池警視總監とが9月2日に取ったもう一つの行動は、「東京付近の震災を利用し、朝鮮人は各地に放火し不逞の目的を遂行せんとし、現に東京市内に於て爆弾を所持し、石油を注ぎて放火するものあり。既に東京府下には一部戒厳令を施行したるが故に、各地に於て充分周密なる視察を加え、鮮人の行動に対して厳密なる取締を加えられたし」という電文を海軍東京無線電信所船橋送信所から全国各地長官に発信したことである(所収: 琴秉洞編『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅱ 朝鮮人虐殺関連官庁史料』158頁)。その電文は3日午前8時15分に発信されているが、その電文原本には、欄外に「この電報を伝騎にもたせたりしは二日の午後と記憶す」と注記されている。

枚挙にいとまない中、少なくともこれらの歴史事実を闇に葬り、国家責任を100年不問に伏し続ける民主的法治国家とはこの世界にあり得るのだろうか。そのことを問うことさえしない共犯の罪にどのように私たちキリストの教会が向き合うか、やはり見つめておられる主のまなざしを覚えずにおれない。



内務省警保局長電文海軍東京無線電信所船橋送信所